

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年九月句会 (第一三六回)

兼題 「虫の声」

開催日 令和五年九月二十三日

開催場所 市川市内焼肉「城」

出席者 五名

投句者・選句者 七名

(二二点句)

五線譜を知るか知らずか虫の声	互酬
虫さんよ一緒に泣いてくれるのね	艸寛
夕されば蟬に替わりて虫の声	夢心
初心者も混じりて演舞実むらさき	寿歩
優勝の新聞片手に新酒飲み	小牧

(一点句)

虫の声出会いサイトのクリックせむ	寿歩
虫の声じっくり聴いてて長湯せり	徹心
休暇明け交通誘導十日間	夢心
スーパームーン隠し現わし過ぎる雲	夢心
香を放つ飛鳥の跡に金木犀	艸寛
芋虫のアスファルト道走りけり	玄鳥
陽の明るる知りてか虫の狂い鳴き	寿歩

(投句)

夜なべ終え一人占めす虫の声	小牧
風吹けば葉擦れに合はせ虫の音も	玄鳥
虫の声輪唱合唱独唱も	徹心
しりみりと土にしみ入る霧時雨	玄鳥
錦秋にふるさと納税然もありなん	互酬
虫の声雌へのアピール命懸け	徹心

『句会後記』

例年になく猛暑の続く今夏、そして9月も終えようとしているその中で、兼題「虫の声」で始まった句会。虫たちの鳴き声も幾分元気がなく聞こえる、そんな秋を会員の皆様は、それぞれ思考を凝らし五七五を奏でてくれました。会員数の増員とともに投句数を増やしていくと言う話しも出ました。

今回は、句会会場を焼肉城に移しその後会食会を実施して楽しいひと時を過ごしました。

(互酬記)

(四点句)

●朝顔の一つも咲かぬ日義母送る 互酬
 選評：いつも朝になると開花する朝顔の花が、今日は一つも見当たらず不吉な予感がする。然の如く義母の身罷った事を知り、彼岸への旅立ちを送る事になった。と評者は解釈し、咲かなかった朝顔という語句の持つ象徴的な現象を、句に籠めた点を評価したい。

(徹心記)

●一回りやっぱり手にす初秋刀魚 小牧

選評：いろいろと世の中が変化しています。秋刀魚の不漁も世の中の変化の一つです。しかし、慣れた秋刀魚の味は、簡単にはあきらめきれません。

店を廻って、もう一度手にする。

『やっぱり』という難しい気持ちがよく伝わってきている句です。 (艸寛記)

(三点句)

●秋澄むや上司の声はよくとほり 艸寛

選評：五行論(木火土金水)によると秋は金、五臓では肺(呼吸)にあたる。ぼやいてばかりだった上司の声がよく通るのは合唱、能、詩吟の稽古でも始めたのか、それとも空気が澄んだからであろうか。いろいろ想像でき、て良い句だと思ふ。(玄鳥記)